滋賀県内の生活写真アーカイブの調査に基づく新たなデジタルアーカイブ実践について

京都工芸繊維大学 大学院

橋詰知輝

概要

「生活写真」という定義…

祭りや信仰、日々の衣食住など、
生活の中で繰り広げられる森羅万象について、
ある地域ごとにまとめて写真で記録し、保存しておくこと
そこでの人々の生活についての可視化された記録となる。
こうした写真を人知れず撮影し続けている人は少なくないが、
その写真は日の目を見ることが少ないのが現状である。
また、彼ら/彼女らの写真は、
人々の生活にかなり近づいていることが多く、
他とは切り分けて考えるべきだと考え、
「生活写真」と名付ける。

本発表での取り組み…

自らに縁のある滋賀県にて、
「生活写真」の利用の現状や保存手法などを
公共施設(美術館、博物館、資料館)に調査するとともに、
自らアーカイブ実践を行い、種々の問題への対応を試みる。

写真出典:
湖北アーカイブ
研究所

生活写真

主たる撮影者

地元のアマチュア (趣味での撮影)
職業写真家 (市役所からの依頼など)
研究者 (研究資料として)
→多種多様な人々

先行事例・研究

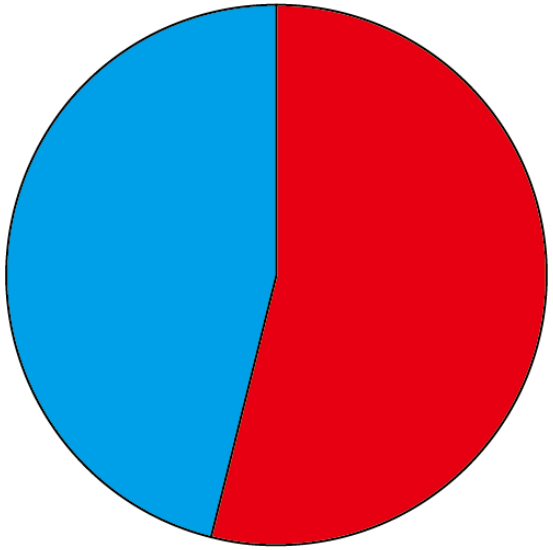
琵琶湖博物館「写真で見る生活史」
宮本常一記念館「宮本常一アーカイブ」
岐阜女子大学デジタルミュージアムの一部
DiPLAS の一部
→大規模なプロジェクトが多い

特徴

小中学校での地域学習
博物館等での展示資料
民俗学等での研究材料
→地域 / 時代の理解を深める貴重な資料となる

課題

死後の取り扱い
肖像権
当事者がアカデミアから遠い
予算が付きにくい
→一つ一つがクリティカルな問題

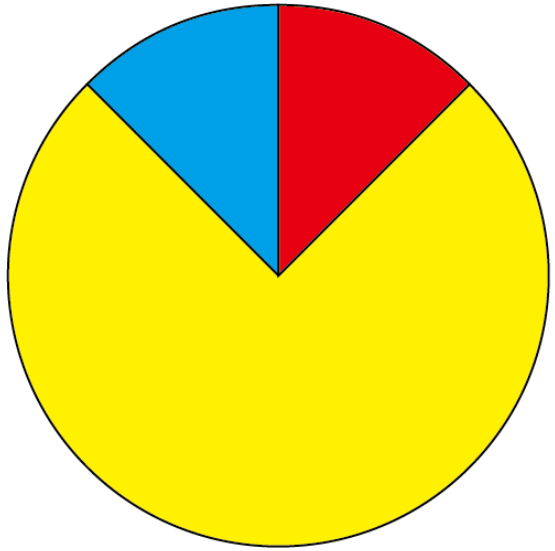


**生活写真が館に
所蔵されているか**

回答館:15(以下同じ)

ない

ある

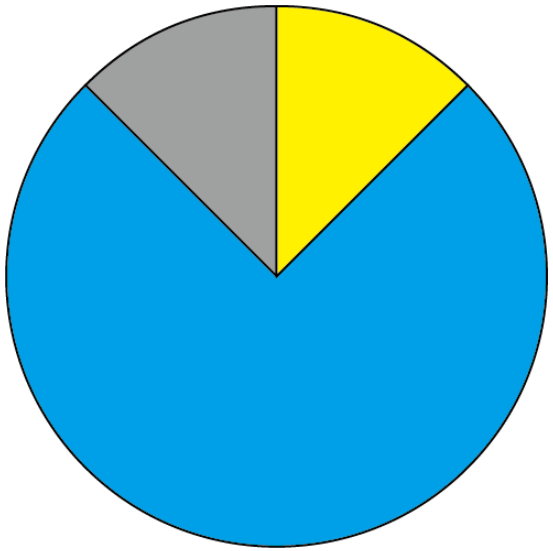


**所蔵されている
生活写真は
活用されているか**

活用されていない

一部活用されている

活用されている

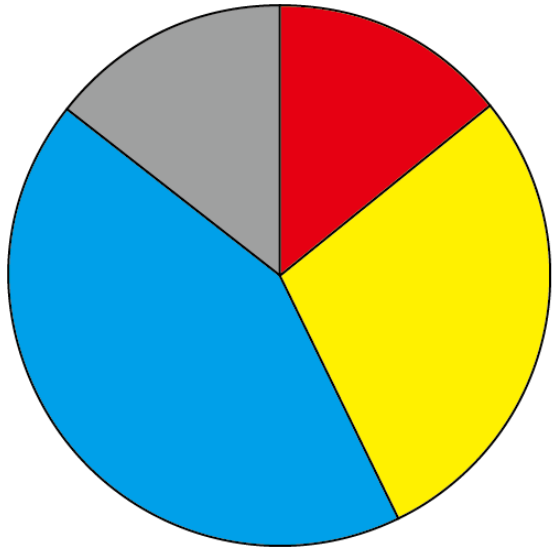


**肖像権に対しての
権利処理を終えているか**

無回答

検討したことがない

一部の写真で終えている



**著作権に対しての
権利処理を終えているか**

未回答

検討したことがない

一部の写真で終えている

すべての写真で終えている

1.滋賀県内の現状調査

アンケートを行った主な館…

琵琶湖博物館、大津歴史博物館、滋賀県立美術館、土山歴史民俗資料館など、博物館・美術館・資料館への問い合わせを主とする。

県内でのその他の生活写真アーカイブ…

教育委員会や個人蔵のアーカイブといった、検索しても出てこないアーカイブも存在するため、地域の写真を調べる際にはそうした場所への問い合わせも有効な場合がある。

アンケートを行った上での主な問題点…

予算の少ない小さな館ではデータ化・アーカイブ化がそもそも難しい。また、著作権的同意や肖像権的同意は取ることが出来ていないことが多く、「使いやすいアーカイブ」を考える際には必要である。

昨年12月に話を受け、

20万枚以上滋賀の生活写真を撮影している人物と出会った。

話し合いの中で、写真のアーカイブ化とデータ化、利活用を行うことが決まったが、アーカイブの手順については一任されたため、先行事例を参考にしながら、手法を提案した。

初めからすべてをデータ化するというのは予算上非常に難しいことから、まずは特定のテーマを決めたうえでデータ化を行い、**そのテーマごとに企画を立ち上げることでアーカイブの重要性を打ち出し、社会に訴えかけていく必要があると考えた。**

そうした上で、まずは**1テーマ約1000枚をデータ化**する話となった。

2.1 写真撮影者との出会いと小規模アーカイブとしての旗揚げ

アーカイブの必要条件:

「予算は10〜15万円程度」
「スキャン後、A4でのプリントに耐えうること」
「色味がマニュアルで調節できること」
「後編集が可能なデータで取り込めること」

アーカイブの推奨条件:

「スキャン後、A3でのプリントに耐えうること」
「設定が簡便であること」
「利用が安易に行えること」

→研究や機器に詳しくない一般人でも行いやすい環境を整える

手順:

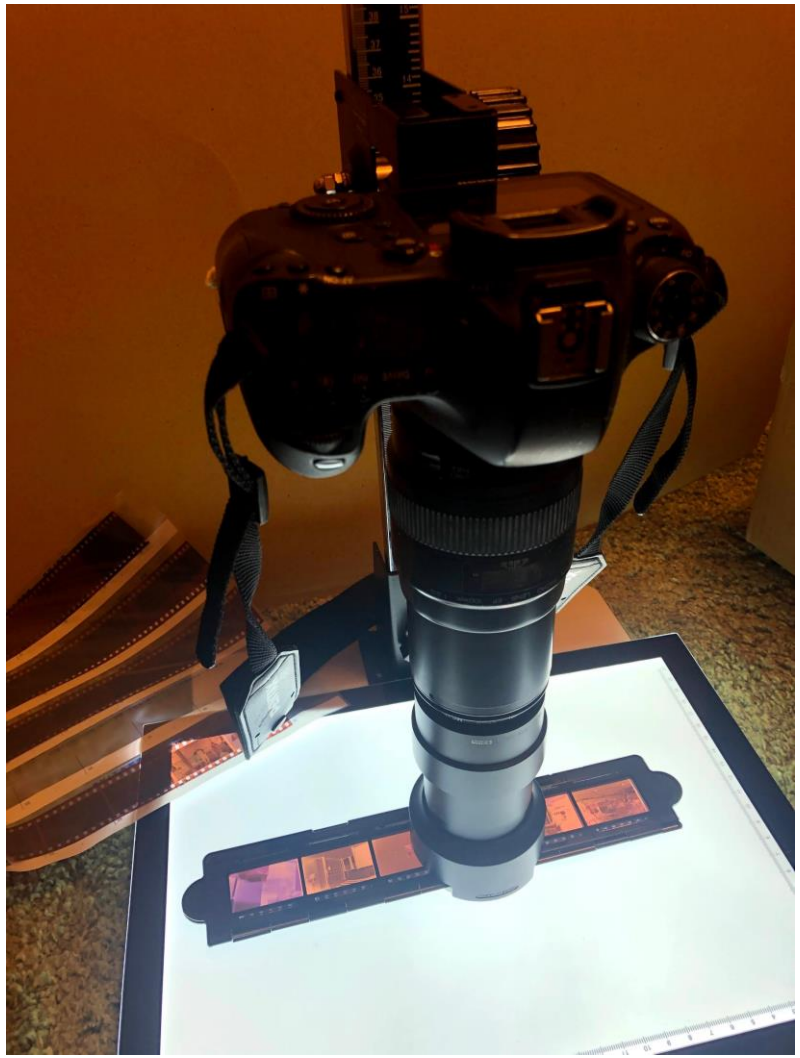
①撮影装置の準備をする

②Excelにスキャンする画像に対する
　メモを書き込む

③対象のネガをスキャン(撮影)する

④データの確認を行う

⑤ネガの反転処理とホコリ/傷等の除去を行い、
　データを完成させる。



2. 2 安価にフィルムをデータ化する手法

要点の要点:

ネガ反転プロセスは「Negative Lab Pro」を用いる。

←Lightroomの外製プラグインとして

Lightroomでの「MIDI2LR」というプラグインとMIDIコントローラを使用

→回転ツマミに微調整が必要なパラメータ、下部ボタンにレンズプロファイルの適用、90度回転/逆回転、次の写真/前の写真を配置し、ホコリ除去やカビの除去以外のすべてをマウスなしで完結。

出典:https://www.negativelabpro.com/

2. 2 安価にフィルムをデータ化する手法

写真展とクラウドファンディングの開催…

滋賀県のアート系助成金に応募し、75万円ほどの助成金を得ることが出来た。

→展示会資金の大部分をそこから賄えたことに加えて、地元と滋賀県立美術館等での4会場開催となり、アーカイブを周知していくうえでの一歩となった。

書籍はクラウドファンディングでの出版を目標にしており、現在クラウドファンディングで150万円以上を集めている。

3. 写真の活用と展開

文化的/教育的活動の中で恒久的に使われていくことを
目標とするためには、
アナログ資料とデジタルデータをただ保持すればいいだけではない。

具体的には、
①撮影者に著作権的同意を得ておくこと
②可能な限り多くの肖像権同意書を取得すること
③アーカイブ用のHPを整備すること
④アナログ資料の適切な収蔵先を探すこと
が必要である。

人々の権利のために著作権と肖像権が重要視され、生活写真を使うことには何かとハードルがある時代ではあるが、

小規模アーカイブは、そうした時代において、その小回りの良さから、権利的な問題をクリアしたうえで公開可能な可能性を秘めており、今後ますます重要になってくると思われる。

少人数・低予算でデータ化を行える環境を整えることが出来れば、その後の展開を助成金等によって賄っていくことで、ある程度までは活動の場が広げられる。

4.おわりに